

## ～10年プロジェクト 次世代が継ぎたくなる商店街・街づくり事業②～

商店街に祀られている橋樹(たちばな)神社の神楽殿で「こども歌舞伎」を奉納。伝統文化を通じてファミリー層を中心とした地域住民とのつながりを強め、持続的な商店街の認知度向上と賑わいの創出に取り組むとともに、次世代の後継者育成を図った。

所在地：神奈川県横浜市保土ヶ谷区天王町  
1-23-14

TEL：045-335-6659 FAX：045-335-6650

URL：<http://tennocho.kiilife.co.jp/>

組合員数：112名

商店街の類型：地域型商店街

### 商店街の概要と事業を実施した背景

当組合は、相鉄線「天王町駅」前から真っ直ぐ国道16号に至る250mの駅前通りと、交差する「表門通り」の300mを街区とし、飲食や物販など100店舗以上が加入する商店街。組合員はこの地に根付いた店舗が多く、得意客は年配層が中心だが、駅を利用する幅広い年代が商店街を通行し、イベント開催時はファミリー層の来街も目立つ。街区には鎌倉時代初期に建立された橋樹神社があり、境内で季節のお祭り、これに合わせた骨董市等が開かれている。当組合では前年8月、町内会や橋樹神社と連携して「こども歌舞伎」を発足させ、11月に神社の神楽殿で初公演を行った。近隣のファミリー層を取り込み、商店街や地域の活性化にも役立てようと、若手を中心に「こども歌舞伎」の定着を図っている。

### 実施した事業の概要

#### ①子供フェスタと橋樹神社納涼祭(平成26年8月23日実施)

昼からの「子供フェスタ」では、神社の境内に組合員が模擬店を出店し、地元中学校の吹奏楽部などがステージ演奏したほか、保土ヶ谷スポーツセンターや横浜FCによるゲーム、横浜美術館の紙で帽子をつくる工作等に多くの子供たちが訪れ、夏休みの思い出づくりを楽しんだ。

午後4時からの「納涼祭」は、境内に提灯を灯し、模擬店での飲食のほか、神楽殿で御神楽やフラダンス、バンド演奏などを行い、近隣から多くの来場者を集め、地域住民同士の交流の場となった。

#### ②こども歌舞伎教室(平成26年8月26日～平成27年3月8日開催)

教育委員会の協力を受け募集した地域の小学生の男女8名が参加。日本舞踊「花柳流」の講師を招き、27日間にわたり商店街が事務局を置く天王町コミュニティセンターで歌舞伎の基礎及び演目稽古を積み、7名が公演に臨んだ。

#### ③奉納こども歌舞伎(平成26年11月22日・平成27年3月8日実施)

それぞれ午後1時からと4時からの2回公演。開演前には商店街を練り歩き、来街者の目を惹きつけた。11月は「釣女(つりおんな)」という能狂言をもとにしたコミカルな演目。「大名が釣りざおで絶世の美女を釣り上げて妻にしたのをうらやんだ家来が、願掛けを間違えて醜女(しこめ)を釣ってしまう」というもの。7名の小学生がそれぞれの役をこなし、観客から拍手喝采を浴びた。また同時に、神社境内での骨董市と、神社前の通りでのフリーマーケットを開催し、1,000名を超える来場者で賑わった。

3月は震災復興支援「絆バザール」と銘打ち、東北の物産展を始めとして、模擬店の出店や餅つき等を同時開催。あいにくの雨天だったが「絆バザール」に500名、歌舞伎に100名を集客した。



### 成果と成功の要因

前年の奉納歌舞伎はNPO法人に委託して行ったが、今回は当組合の青年部が中心となって実施した事で、自力開催の経験や能力が身につく、商店街の後継者育成にもつながった。また、今回の事業をきっかけに地域住民とのつながりができ、ファミリー層の来街が増えたほか、イベントの実施後に薬局の出店で空き店舗が1店舗減の見通しとなった。

橋樹神社納涼祭は、今回初めて子供フェスタと同時開催したところ、祭りに参加した後に家族や友達同士が連れだって飲食店等へ立ち寄るケースが多くあり、個店の集客と売上増加にもつながった。



### 今後の取り組み

当組合は周辺の大店への顧客流出や店主の高齢化等の問題を抱えているため、今後もこども歌舞伎を定着させていく取り組みの中で地域住民とのつながりを強め、来街の促進と個店の売上増加を目指す予定である。また、橋樹神社等の地域資源を活かし、イベントを通じて人が集まる魅力的な商店街をアピールすることで創業者や起業家の出店意欲を高め、出店希望者を募り空き店舗を解消することを目指している。

事業継続のための資金は、組合員からの賦課金や積立金を充てるほか、新たな収益事業の立ち上げも検討する予定としている。